

海外でのDXの進展

—DX・第4次産業革命の本質と日本の閉塞・陥穽、未来萌芽—

藤野 直明

目 次

1. はじめに
2. 海外におけるDXの進展—三つの視点—
3. 日本企業の閉塞と陥穽、未来萌芽
4. 終わりに

DXが話題である。一方、日本での取り組みと海外でのそれとは目的や狙いが異なるように見える。本稿では、まず海外でのDXの進展とその本質を三つの視点から俯瞰した。三つの視点とは、①デジタル技術のパフォーマンスの拡大と企業組織、「企業と市場の境界」への影響、②GAFAモデルの本質と産業への応用、③オープンイノベーション加速のための政策—新産業のシステムアーキテクチャ設計—、である。次に、日本におけるDXの取り組みを俯瞰し、日本企業の閉塞や陥穽という側面とポジティブな未来萌芽について整理した。日本のDX推進に際し、アナリスト諸氏に期待すること大である。

1. はじめに

筆者は、日々事業会社のコンサルティングを行いつつ政策形成にも関与している。海外でのDX（デジタルトランスフォーメーション）についても知る立場にある。本稿では、海外におけるDXや第4次産業革命の進展について振り返り、その本質をまず整理した。日本企業の対応については、その閉塞と陥穽、未来萌芽について、アナリスト諸氏を意識しつつできるだけ分かりやすく整理し

ご紹介したつもりである。

2. 海外におけるDXの進展—三つの視点—

(1) デジタル技術のパフォーマンスの拡大と企業組織・「企業と市場の境界」への影響

デジタル技術の発展を象徴する代表例はムーアの法則だろう。半導体の処理速度が1.5年で2倍になるという予言的法則である。同様に、通信ス



藤野 直明（ふじの なおあき）

（榎野村総合研究所 産業ITイノベーション事業本部 主席研究員。1986年早稲田大学理工学部物理学卒業。1998年東京大学大学院工学系研究科博士課程先端学際工学専攻単位取得。1986年4月榎野村総合研究所 鎌倉研究本部入社。総合研究本部、新社会システム研究本部、ビジネスイノベーション事業部長を経て、2018年4月より現職。主な著書に、『サプライチェーン理論と戦略』（共著、ダイヤモンド社、1998年）、『サプライチェーン経営入門』（日本経済新聞社、1999年）、『小説 第4次産業革命』（共著、日経BP、2019年）ほかがある。